

JP 3-02 水陸両用作戦

(Executive Summary)

米統合参謀本部

(訳者：後瀉 桂太郎)

Joint Chiefs of Staff, *Amphibious Operations*, Joint Publication 3-02, August 10, 2009, pp. xi – xxiii.

翻訳の趣旨 (訳者)

わが国にとって必要な水陸両用機能を検討するにあたり、最も豊富な実績とノウハウを持つ、米軍の水陸両用作戦を研究する必要性については異論のないところであろう。米軍の作戦思想等を理解するにあたり、まずアプローチすべきは、米統合参謀本部がインターネット等を通じて公表している各種ドクトリンである。これらのうち水陸両用作戦に関するドクトリンとは、ここに示す Joint Publication 3-02 “Amphibious Operations” である。

しかしながら本文書は総計 200 ページ以上にも及び、その全てを網羅することは容易ではない。よってここでは “Executive Summary” について翻訳し、そのアウトラインを把握することとした。

軍事略語や軍事専門的用法にあたり訳者が判断する部分については、適宜注釈あるいは補足を加えている。

また、用語の定義については脚注に示すとおり、JP3-02 原文末尾にある Glossary を参照されたい。

指揮官の視点に基づいた概観

- ・ 水陸両用作戦の概要を示す。
- ・ 水陸両用作戦の指揮統制について議論する。
- ・ 水陸両用作戦の実施について議論する。
- ・ 敵の沿岸防備に対する水陸両用作戦について議論する。
- ・ 水陸両用作戦に対する支援について議論する。
- ・ 上陸部隊のロジスティクス計画について考慮事項を提供する。

概 観

- ・ 水陸両用作戦の第一の目的とは、上陸部隊（LF）を海岸部にきょう導することである¹。
- ・ 水陸両用作戦とは戦闘力を最も有利な場所とタイミングで正確に投射、割り当てることで敵の意表を衝く要素を作為し、弱点につけこむことを探求することである。
- ・ 水陸両用作戦部隊（AFs）は（割り当てられた）任務に基づき、任務編成される。

この刊行物は水陸両用作戦における基本的な原則と指針を提供し、統合軍指揮官（Joint Force Commanders：JFCs）と司令部参謀及び支援部隊または下位指揮官の作战立案・遂行並びに評価に寄与する。水陸両用作戦とは割り当てられた任務を達成するべく、上陸部隊（Landing Force：LF）を海岸部にきょう導することを第一の目的とし、艦船あるいは航空機に搭載された水陸両用作戦部隊（Amphibious Force：AF）によって海上から投射する軍事作战である。1個AFとは水陸両用任務部隊（Amphibious Task Force：ATF）であり、LF及び他の兵力と共に水陸両用作戦のため訓練され、組織され、所要の装備を有している。

水陸両用作戦は、統合軍あるいは多国間の作战における海上からの兵力投射のため、機動性をその大原則とする。

水陸両用作戦は作战あるいは会戦（campaign）目標を一連の迅速な打撃によって達成するためにデザインされるべきであり、また、以下の任務を包含する。軍事的橋頭堡を構築するための会戦あるいは主要作战の初期段階、（敵による）特定の区域あるいは施設等の使用を拒否するための支援作战、敵を引き付けるとともに警戒する、敵を側面から切り崩す、さらには軍事的関与の支援、安全保障協力、抑止、人道支援そして民間支援である。

LFは統合軍指揮官に適切で機動力のある兵力を提供する。それは後続の部隊の投入を容易にし、主たる、あるいは補助的な目標として奇襲を成功させるために十分な柔軟性を持つものである。

水陸両用作戦は複数の軍事作战領域にまたがって遂行され、次の5つのカテ

¹ 訳者注：きょう導（嚮導）とは、先頭に立って部隊を導くことを指す。

ゴリーに分別される。すなわち、水陸両用強襲 (Amphibious Assault)、水陸両用襲撃 (Amphibious Raid)、水陸両用陽動 (Amphibious Demonstration)、水陸両用撤退 (Amphibious Withdrawal)、そして水陸両用支援 (Amphibious Support) である。

水陸両用強襲とは、敵性あるいは潜在的敵性圏内の海岸部に LF を展開することである。

水陸両用襲撃とは、予め撤退までを含めて計画された、迅速な襲撃もしくは目標の一時的占拠を含む水陸両用作戦の種類²の1つである。

水陸両用陽動とは、敵が我の行動に惑わされ、敵自身が不利となるような行動方針 (Course of Action : COA) を選択することを期待し、部隊が欺瞞行動をとって見せることである。

水陸両用撤退とは、敵性もしくは潜在的敵性圏内の海岸部から、船舶もしくは航空機によって海上に部隊を引き上げることである。

水陸両用支援とは、紛争防止あるいは危機沈静化に寄与する種類の水陸両用作戦である。

水陸両用作戦 (能力) は、次のような広範囲かつ多様な目標に資するために用いられる場合がある。

- ・ 敵の致命的な弱点もしくは決定的な要所を攻撃する。
- ・ 港湾や飛行場を含む拠点を奪取する。
- ・ 前線基地強化のため必要な区域を奪取する。
- ・ 敵の前線基地あるいは支援設備を駆逐、無力化あるいは奪取する。
- ・ 海外地域に戦略的、作戦あるいは戦術的に安全を確保する。
- ・ (沿岸防備にあたる敵に対し) 戦略的、作戦あるいは戦術的 (欺瞞を) 与える³。
- ・ 米国民、基地提供国国民もしくは第三国国民の避難
- ・ 後続する兵力の到着までの間に行う、安全が確保された環境の整備

水陸両用作戦はその性質上、統合運用を前提としており、また状況によって

² 訳者注：水陸両用強襲が敵地の獲得とその継続を目的とするのに対し、水陸両用襲撃は予め撤退を計画した上での一時的な目標占拠を目的としており、米軍は明確に別種の作戦として区別している。

³ 訳者注：“Providing strategic, operational, or tactical” の後が落丁しているため、同項目について詳細な説明を加えている CHAPTER I -3 頁から適宜補足した。

広範囲の航空、地上、海上、宇宙そして特殊作戦部隊の参加を要する。水陸両用作戦の主要な性格として、緊密な調整と共同ということが挙げられる。

作戦を成功に導くためには、AF は局地的な海上・航空優勢を確保するとともに、海岸部において敵に対し確実な優勢を確保すべきである。

水陸両用作戦は特定の任務あるいは状況に資するよう、これにあわせて作戦形態を適合させるべきである。

水陸両用作戦はAF指揮官に対して、統合部隊指揮官、下位指揮官あるいは各軍種の部隊指揮官による、軍事作戦を指揮するための着手命令（initiating directive）の発出、もしくはJFCによる作戦に関する全責任の委任によって開始する⁴。

水陸両用作戦は、一般的に次に示す段階として明確に区分される。すなわち計画、搭載、予行、機動、実施である。

水陸両用作戦における指揮統制

- ・ 統合作戦の諸原則に従うことにより、指揮の統一性、計画と指令の集中そして個々の作戦実施を通じて努力の方向性が統一される。
- ・ JFC は（作戦に必要な）構成機能に応じた指揮権を付与する、あるいは下位の統合任務部隊を編成する場合がある。
- ・ JFC は AF の範疇を超えて指揮権を統一することにより、水陸両用作戦目標の達成を追求し、努力の方向性の統一を図る。
- ・ 支援部隊指揮官は支援を提供するにあたって必要な兵力、戦術、方策、手続、そして通信手段について決定する。
- ・ 水陸両用作戦において、遭遇し得るあらゆる状況に適用できる標準編成などというものは存在しない。
- ・ JFC は地上兵力と海上兵力を有効活用するため、作戦区域を明確化する目的で種々の境界線を設定する場合がある。

水陸両用作戦は統合作戦の原則にのっとっている。JFC は作戦構想（concept of operations : CONOPS）に基づき、割り当てられた任務を完遂するために最

⁴訳者注：着手命令（initiating directive）とは、軍事作戦の実施に関する下位指揮官への命令を指す。JP3-02 Glossary（GL-17）参照

善の部隊を編成する権限を持つ。信頼できる組織は指揮の統一性、計画と指令の集中、そして個々の（作戦の）実施を通じて努力の方向性を統一する。

JFCは任務の割り当て、作戦行動の変更及び下位指揮官同士の調整の指示について全ての権限を持つ。JFCは各軍種に対し、戦術・作戦面における個々の兵力や部隊が、総体として計画されたとおりに機能を果たすよう（行動する）権限を与えるべきであろう。

JFCは（作戦に必要な）構成機能に応じて指揮権を付与する場合がある。また、JFCは地理的なエリア、あるいは（作戦上の）機能にのっとして下位の統合任務部隊（joint task force : JTF）を編成するケースもあり得る。JTFはこれを編成するための目的が達成された場合、あるいはこれ以上JTFを維持する必要がないと認められた場合に解散する。

水陸両用任務部隊指揮官（Commander, amphibious task force : CATF）はATFの指揮官として着手命令で指定された海軍士官である。上陸部隊指揮官（Commander, landing force : CLF）は水陸両用作戦を目的とするLFの指揮官として、着手命令で指定された将校である。

JFCはCONOPSに基づき、AFを任務遂行に最も適した形態に編成することになる。水陸両用作戦において、各軍種の部隊指揮官は通常各部隊の作戦統制権を保持している。

計画時の判決は任務、目的、戦術、技術そして手続の点について（部隊間）の共通理解を前提に導かれなければならない⁵。確立命令（establishing directive）は通常（部隊間の）支援関係、期待される成果の目的と、とり得る行動範囲を明確に示すために発出される⁶。

支援とは指揮権限である。確立命令もしくは着手命令で制限される場合を除き、被支援部隊指揮官は支援活動の全般指揮を実施する権限を持つ⁷。

緊急時を除き、関連する指揮官の協議なしに指揮系統の一人の指揮官によって計画や部隊の配置、あるいは別の指揮系統のこれに相当する指揮官の意図に影響すると予期されるような重要な意思決定がなされることはない。

水陸両用作戦において、遭遇し得るあらゆる状況に適用できる標準編成など

⁵ 訳者注：作戦計画立案時、複数の行動方針案についてその優劣を比較検討の上、方針決定することを「判決を導く」と称する。

⁶ 訳者注：確立命令（establishing directive）とは、水陸両用作戦における部隊間の支援／被支援関係を明確にするため発出される命令を指す。JP3-02 Glossary (GL-15) 参照

⁷ 訳者注：例えば、水陸両用強襲の実施に際し、上陸部隊指揮官（LF）は火力支援部隊指揮官を指揮する権限を持つということである。

というものは存在しない。個々の任務部隊はそれぞれ（状況に応じて）編成されるか、一部は作戦上の要求に基づいて合同される。柔軟性が不可欠である。

水陸両用作戦は通常 AF の作戦目標が存在するエリアを含む、地理的に3次元の行動エリアが必要である。作戦区域は AF が任務を遂行するための海上、地上そして航空作戦を実施するために十分な広さが確保されなければならない。加えて、JFC は多様な（部隊の）機動及び移動の管制及び火力支援調整手段を使用する。

水陸両用作戦において、LF の編成を度々繰り返す必要がある。3つの機能上の組成のうち1つは「搭載編成 (organization of embarkation)」であり、あらゆるレベルの司令部で計画を簡素化するとともに、部隊の搭載を容易に実施することを目的として、一時的に運用上の任務編成を行うことである。2つ目は「上陸編成 (organization of landing)」であり、上陸と割り当てられた任務を達成するための作戦行動を容易に実施するべく、部隊を戦術的に特化させたものである。3つ目は「海岸部での任務達成のための LF 部隊編成 (organization of LF units for accomplishment of missions ashore)」であり、LF における各種強襲兵力の上陸に引き続いて出来る限り速やかに編成し、適用される。

AF の支援として実施される統合航空作戦は、JFC あるいは AF の作戦目標達成を支援するため航空戦能力・兵力を有効に活用する。通常 JFC は統合航空部隊指揮官、区域防空指揮官 (area air defense commander : AADC) 及び統合作戦エリア (joint operations area : JOA) における空域管制官を指定する⁸。

AADC は統合軍の防空作戦行動に関し全面的に責任を負う。首尾一貫した防空計画を制定するため、AADC に指定された指揮官は支援対象の部隊指揮官、(作戦区域を)隣接する部隊指揮官及び JFC と綿密に調整された計画を制定し、強固な指揮統制機構を確立する必要がある。

⁸訳者注：JOAとは”joint operations area”の略語であり、統合軍が作戦行動する区域を指す。JP3-02 Glossary (GL-3) 参照

水陸両用作戦の実施

- ・ 水陸両用作戦は敵の抵抗を上回るテンポの速さが焦点であり、機動性と迅速性に重きを置く。
- ・ **LF** の作戦を成功に導く鍵は、いかに海岸部で戦闘力を迅速に構築できるのか、ということである。
- ・ 水陸両用作戦計画を成功させるためには指揮官の関与と指導、努力の結集そして統合された計画立案への力の傾注が必要である。
- ・ 地理的条件を考慮した完全なシステムを構築するため、**AF** 及び他の支援部隊は多岐にわたる兵力間に生じる相互干渉の可能性を最小化するよう組織編成されるべきである。
- ・ 最終段階における（作戦区域への）近接の際、適切な調整とタイミングが最も重要となる。
- ・ **OTH (over the horizon)** 作戦は私の意図と能力を秘匿し、敵の意表を衝き、沿岸防衛線の拡大を強いる要素となる。
- ・ 予行段階では計画、細部計画のタイミング、通信情報システム、戦闘即応状態そして全部隊の計画に対する習熟といった点が満足するレベルにあるのか否か、という点について検証する。
- ・ 実施段階とは **AF** のうち **LF** が作戦区域に到着し、任務を達成するまでの間を指す。
- ・ **AF** 指揮官は支援作戦、先行部隊作戦及び強襲前作戦という3つの補助的作戦を通じ、作戦環境を適合させることを追求する。
- ・ 水陸両用襲撃は撤退までを計画に含めた、迅速な襲撃もしくは目標の占拠を実施する作戦である。
- ・ 水陸両用陽動とは私の主作戦における時間と場所、主力の規模に関して敵を混乱させることを意図する。

水陸両用作戦は海岸部における **LF** の確立という手段によって外地への兵力投射を行うため、機動性を大原則とする。**AF** は **JFC** の作戦目標達成のため、迅速かつ焦点を絞った作戦を実施する。全ての行動は指揮官の作戦目標達成に焦点を合わせる。作戦自体は **AF** にとり行動の自由を担保されるべきである一方、作戦遂行のテンポは敵の抵抗を上回る速さである。

敵の防衛線における間隙を利用することができない場合、沿岸防衛に対する

AF の作戦上で選択する戦術は、敵の拠点を回避または迂回するというものである。AF はあらゆる使用可能な兵力によって発揮し得る最大効果について熟知しなければならない。

水陸両用作戦における作戦段階は、計画、搭載、予行、機動、そして実施である。実施段階はさらに、水陸両用強襲、水陸両用襲撃、水陸両用陽動、水陸両用撤退の4つに分類される。

水陸両用作戦の計画は、着手命令の受領から作戦の終結まで継続する。水陸両用作戦計画を成功させる基本は、指揮官の関与と指導、努力の結集そして統合された計画立案への力の傾注である。

水陸両用作戦実施の礎石は次の6つの計画プロセスである。すなわち、任務の分析、COA の策定、COA の予行演習、各 COA の比較と決定、各種命令の策定、そして（部隊の）機動である。

AF 指揮官は水陸両用作戦遂行に際して行う各段階の計画立案の前に、この計画段階で最初の確実な決断を実施する。

（作戦行動の結果に関する）判定（アセスメント）は AF が任務達成に向けて前進しているか否かを測るプロセスであり、作戦のあらゆる段階で実施する。判定という行動とその尺度は指揮官が必要に応じ作戦や資源を状況に適合させる際、あるいは作戦の分岐点や終結点、あるいは他の重要な決断を行う際にその支えとなる。

CATF は機動計画の立案について責務を負う。下位の部隊指揮官は自身が委任された細部の機動計画を立案することになる。

AF が最終集結区域（staging area）から（作戦区域へ）機動を開始した後、天候、敵主力の予期せぬ動き、もしくは作戦実施の可否に関する判断基準を見出せない、といった原因により作戦の延期が必要となる場合もあり得る⁹。作戦延期に関する事項はCATFにより立案され、通常OPLAN（作戦計画）の中で明らかにされる。

機動計画は最終集結区域から作戦区域に至るあらゆる地点において代替計画を発動できるよう、十分に柔軟性のあるものでなくてはならない。

作戦区域に至る、あるいは作戦区域内の海上行動経路は通常 CATF により立案されることになるだろう。作戦区域内の海上行動経路は以下の点に留意して選択されるべきである。まず艦船及びこれの形成する陣形が受ける妨害を最小

⁹ 訳者注：集結区域（staging area）とは、攻撃開始、補給、艦船の再集結あるいは部隊の訓練、査閲及び再構成を実施する場所のことを指す。JP3-02 Glossary（GL-24）参照

限にとどめること、つまり機雷源と航行上の障害物が排除されているかという点、次いで AF が格好の攻撃対象となるような部隊の集中を避け、十分に分散しているのかという点、そして AF の直衛兵力の効率性である。

作戦区域に至る各集結区域の使用に関し、CATF は CLF と協議の上で計画を策定することになる。

AF と他の支援兵力という、多岐に渡る兵力が干渉し合う可能性を最小化するため、上陸区域に隣接する海上区域は各種作戦区域として選択、指定、分割されることになる。

AF の情報センターは CATF と CLF に対する時宜を得た適切な情報配布の責務を負う。情報を得た ATF の艦船は乗艦する上陸部隊に得られた情報を配布する責務を負う。

AF を支援する AF 以外の部隊の、水陸両用目標区域 (amphibious objective area) 内における行動については ATF と調整されなければならない¹⁰。個々の指揮官はスケジュールを維持し、規定された経路に沿って前進することの必要性を常に認識していなければならない。

作戦区域への近接とは、各種任務部隊が作戦区域の近隣に到着する、ということの意味する。

艦船から海岸への展開に関する計画は CATF と CLF が立案する。この計画は規定された時間と場所に LF の機動スキームを支援するために必要な陣形をもって部隊と装備、補給品を安全に上陸させることを目的とする。

艦船から海岸への展開に関する細部計画は LF の海岸部への機動スキームが決定された後でなければ立案できない。上陸並びに火力支援計画は慎重に統合されなければならない。

CATF は CLF と緊密に調整し、艦船から海岸への展開と上陸計画について、その全般に関して準備する責務を負う。AF に割り当てられた他の部隊指揮官は、彼らの所要事項の決定及び CATF に対するこれらを提示する責務を負う。LF の艦船から海岸への展開計画は上陸計画における最後の紙面に示される。上陸計画に関する文書については、全て CATF と CLF 双方が責任を負う。CATF は艦船から海岸への展開を実施するために要する海軍 (内の) 上陸計画

¹⁰ 訳者注：水陸両用目標区域 (amphibious objective area) とは、AFにより確保すべき目標が存在する地理的区域のことであり、AFの任務達成及び水陸両用作戦における海上、航空、地上からの直接支援作戦を実施するために十分な面積を有していなければならない。JP3-02 II-10 参照

を策定する。

OTH 水陸両用作戦とは、敵地から見て視水平とレーダー水平線を越えた地点から開始する水陸両用作戦のことである。OTH 作戦は自軍の意図と能力を秘匿し、戦術的に意表を衝くことを企図した戦術上のオプションである。この場合 AF が防御しなければならない海岸付近の脅威がより広範囲に広がることを意味し、また護衛艦船にとっては、より広範囲で接近する敵航空機や沿岸防備ミサイルを探知、識別、追尾、交戦することを意味する。一方でこれは敵に対し防御すべき海岸線を拡大させることにもなる。

第2段階である搭載段階とは、部隊が装備や補給物品とともに割り当てられた艦船に搭載される期間のことを指す。一義的なゴールは人員と物資が整然と集積されること、そして搭載の様相が、LF の CONOPS が示す海岸部の機動スキームに合致するようデザインされた順序に基づいている、ということである。重要なのは搭載計画が水陸両用輸送の所要を満たしているか否か、という点である。

予行段階とは想定される作戦に関し、次の点について満足するものであるのか否かについて検証する期間である。すなわち作戦計画、(各作戦の) タイミング、細部の作戦内容の完成度、参加部隊の戦闘即応状態すなわち全部隊が作戦計画に習熟しているのかを確認すること、そして通信情報システムの試験である。予行段階において AF もしくは AF の一部構成兵力は、一度以上の予行演習を実施する。その際実際の作戦において目の当たりにする沿岸部及び上陸区域に近似した環境で実施することが理想的である。この段階における目的とは、作戦上の情報保証と時間的制約の中で、状況の許す限り部隊と OPLAN (operation plan : 作戦計画) の習熟を図ることとなるだろう。

機動段階は搭載区域における積載地点から艦船が出航した時点で開始され、作戦区域の割り当てられた地点に到着するまでを含む。機動段階の間、AFは機動計画及び規定された経路に従って移動を実施する機動グループ (movement group) に編成される¹¹。上陸計画に基づき、AF各部隊は水陸両用作戦の支援のために搭載配備される。

水陸両用作戦において、実施段階とは AF のうち LF が作戦区域に到着し、任務を達成するまでの間を指す。LF は上陸を実施するとともに指揮官の CONOPS に従い海岸部での初期作戦を実施するべく編成されている。実施段

¹¹ 訳者注：機動グループ (movement group) とは、作戦区域に前進し、目標区域で会合する艦船及び積載された部隊を指す。JP3-02 Glossary (GL-20) 参照

階は下位指揮官が分散化して作戦を実施するという特徴を持つ。

CATFは水上と航空の両面において実施する艦船から海岸への展開に際し、全般を統制する責務を負う。LFが空中機動する際に不可欠な統制、調整手段については、要すればCATFとCLFや着手命令もしくは確立命令で明示された他の関係部隊指揮官が共同して確立することになるだろう。AF指揮官は水陸両用作戦の決定的な実施段階に先んじて3つの補助的作戦を通じ作戦環境を適合させる場合がある。3つの補助的作戦とは支援作戦 (supporting operations)、先行部隊作戦 (advance force operations)、強襲前作戦 (pre-assault operations) である¹²。

指揮官により策定され、また海岸部機動に関する CONOPS で詳述される任務には、指揮官が自身の意志を部隊に徹底して理解させ、計画と作戦の実施に関する詳細な部分を精査するという意味がある。

水陸両用強襲は、主力部隊のうち必要な兵力が作戦区域に到着した後、指示により開始される。水陸両用強襲では、戦闘力を段階的に海岸部へ前進させる。

海岸部での作戦段階を構想する際、LFの戦闘力はLFの集中統制の再確立を目的に計画されるべきである。

水陸両用襲撃は割り当てられた任務を達成するために、撤退までを計画に含めた、迅速な襲撃もしくは目標の一時的占拠を実施する作戦である。敵の意表を衝くことは水陸両用襲撃の成功に不可欠な要素である。撤退については細部に至るまで計画され、部隊を再搭載する時間と場所に関する規定を含むものである。

水陸両用陽動とは私の主作戦における時間と場所、主力の規模に関して敵が欺瞞され、混乱することを意図する。陽動の実施に際し、その規模が大きいほ

¹² 訳者注：支援作戦 (supporting operations) とは、水陸両用作戦に際し、水陸両用作戦部隊以外の部隊が実施する種々の作戦を指す。JP3-02 Glossary (GL-25) 参照。

先行部隊作戦 (advance force operations) とは、一部部隊が一時的に任務部隊を編成し、主力部隊が目標区域に入って本格的な強襲を実施する前に、偵察、支援地点の確保、機雷掃討、事前爆撃、水中爆破 (水中障害物除去のため) 及び航空支援といった任務を遂行することで作戦の円滑化を図るものである。JP3-02 Glossary (GL-6) 参照。

強襲前作戦 (pre-assault operations) とは水陸両用作戦部隊自身が H 時あるいは L 時以前の段階で、作戦区域に到着するまでに実施する作戦を指す。JP3-02 Glossary (GL-22) 参照。

なお、H 時とは最初の強襲部隊が海岸もしくは上陸地域に着地するよう計画された時刻であり、L 時とは空中 (ヘリコプター) 機動による第一波強襲兵力が上陸地域に着地する時刻と定義されている。JP3-02 III-9 参照

ど（陽動の）迫真性に直接影響し、効果を高めることになる。実施時期は敵部隊の対応レベルが最も高まるように調整されなければならない。陽動は敵が具体的な対応行動を起こすまで、十分な時間をもって実施しなければならない。

水陸両用撤退とは、敵性もしくは潜在的敵性圏内の海岸部から、船舶もしくは航空機によって海上に部隊を引き上げる作戦である。撤退は部隊の搭載区域における防御手段の構築をもって開始し、全ての部隊が撤退を完了し、指定された艦船に移乗した時点をもって終結する。

AF は広範多岐な作戦について準備しなければならない。一般的にこれらの追加的な作戦は戦争抑止、紛争調停、平和構築及び国内治安の混乱に対する行政機能の支援に焦点を当てたものである。

沿岸防備に対する水陸両用作戦

- ・ 沿岸防備に対する望ましい戦術とは、可能な限り回避、迂回あるいは防御線の間隙を見出すことである。
- ・ 交戦規定上可能な場合、機雷対抗策として最善の手段とは機雷が敷設される前に破壊することである。
- ・ 化学、生物、放射線そして核攻撃に対する防御手段とは、回避、防護そして除染である。

沿岸防備戦力を使用する国家あるいは組織に対し、AF の作戦として望ましい戦術とは、可能な限り回避、迂回あるいは防御線の間隙を見出すことである。作戦面における能力限界によってこの戦術は実行不可能となること、また防御線の突破口が必要となることがあり得る。

沿岸防御（能力）は水路測量術、地形、（兵力として投入可能な）資源、時間的猶予の確保と敵の創意工夫に依存する。対上陸ドクトリンは通常沿岸部における4層の障壁の構築に焦点を当てている。沿岸部から内陸に至る4つの障壁とは防御線、幹線、工兵そして海岸である。

AF は沿岸防御を突破する作戦を実施するにあたって最適の上陸地点を決定するため、国家あるいは複数戦域レベルにわたる沿岸区域を偵察監視可能な兵力を要望すべきである。水深と海岸の地形的特徴が鍵となる。

機雷対抗策（mine-countermeasures : MCM）として挙げられる2つの主要な方策とは、機雷掃討と機雷掃海である。MCM 兵力が作戦を開始するにあた

って必要なのは作戦区域における局地的な航空／海上優勢である。

(敵の)排除、(我の)掩蔽と保全、(敵の)減少と(我の行動の)欺瞞は、水陸両用突破作戦を成功に導くために不可欠な要素である。

指揮官は常に化学兵器、生物兵器、放射線あるいは核兵器(chemical,biological,radiological,and nuclear : CBRN)の潜在的な脅威について明確に理解しておかねばならず、作戦計画はAFの脆弱性を最小限にとどめる方策について包含していなければならない。

CBRN防御の原則とは、CBRNと毒性化学物質(toxic industrial materials : TIM)の危険、特にこれらによる汚染を回避するとともに、これらから不可避な場合は人員と部隊を防護すること、そして作戦能力回復のために除染を実施することである。

水陸両用作戦の支援

- ・ 水陸両用作戦支援の具体的な要素とは、情報、火力支援、通信、ロジスティクス、防護そしてシー・ベーシングである。
- ・ 火力支援計画は、指定された指揮官の意図を達成するために火力使用を最適化する。
- ・ 指揮統制システムは堅固で柔軟性に富み、持続可能で残存性が高く、AFそのものと同様に海外遠征が可能なものでなければならない。
- ・ シー・ベーシングは水陸両用作戦における部隊の近接、集積、使用、維持そして再構成におけるオプションを提供する。

支援作戦は先行部隊が作戦区域に展開する条件を整えるとともに、水陸両用作戦の実施を支援する因子となり得る。支援作戦はAF以外の部隊によって実施され、これらの部隊は包括的な調整を実施した上で行動することが必要である。

水陸両用作戦は艦船、航空機、上陸用舟艇の行動を保証するため、あらゆる作戦領域にわたる広範多岐な計画を含み、また敵の致命的な脆弱点を衝くとともに我の戦闘力を速やかに構築して海岸部の(橋頭堡)維持を図るため、火力支援は特定の地点、時刻において同時性を持って実施される。これらのことから、作戦環境について統合された情報面での包括的な準備が要求される。それには敵の能力と脆弱性そして(敵戦力の)重心を特定した上でこれを考慮し、

作戦立案者が COA を実行可能とするための情報と作戦立案の調和がもたらされることが含まれる。

正確に述べるとすれば、火力支援の計画と実施は水陸両用作戦の成否に決定的な影響を及ぼす。水陸両用作戦における火力支援は、目標捕捉 (target acquisition : TA)、指揮統制 (command and control : C2)、そして攻撃武器という 3 つのサブシステムがもたらす相乗効果の産物である。TA システムと装備は、標的への効果的な攻撃を可能足らしめるに十分な目標の探知、位置特定、追尾、識別そして類別について中心的な役割を發揮する。C2 システムはあらゆる情報を集積、照合することで (指揮官の) 意思決定を可能とし、攻撃システムは航空、水上、地上そして水中攻撃システムからもたらされる火力全てを含む。

火力支援計画とは、我の持つ戦闘力を最大發揮できるよう部隊を統合するため、(情報を) 分析し、(火力を) 分配し、火力支援のスケジュールリングを実施する継続的かつ (他の作戦と) 同時進行させる過程のことである。その目的とするところは、作戦区域を適合させ、機動展開部隊に支援を提供することで指揮官の示した意図を達成するための火力支援の使用法を最適化することである。

CATF は CLF と海軍の要望に基づき、対地射撃支援 (naval surface fire support : NSFS) 計画の準備に関して全面的に責務を負う。この計画には火力支援艦艇と装備の配分に関する事項を含む。あわせて CATF は標的選定の優先順序に関する全般指針を示す責務を負う。

CLF は強襲前作戦において攻撃すべき目標の選定、LF の強襲を支援するための火力支援、そして LF の機動展開スキームと関連させた上での火力使用タイミングといった事項を含んだ、NSFS に関する要望を決定する責務を負う。

水陸両用作戦では、迅速な意思決定と、早い作戦遂行テンポの維持を支えることが可能な柔軟性に富む C2 システムが必要である。これらのシステムは AF 自身と同様に堅固で柔軟性に富み、持続可能で残存性が高く、海外遠征が可能なものでなければならない。CATF と CLF は計画を支援する通信システムについて責務を負う。この際、指定された指揮官は (通信システムに関して提示された) 要望について整理を実施する。

CATF は通常 AF に対するロジスティクス全般に関する要望の決定について責務を負う。あらゆるロジスティクスシステムと同様、AF のロジスティクスシステムは応答性が良く、シンプルで柔軟性に富み、経済的であり、(要求に対する) 達成性が高く、持続可能で残存性の高いものでなくてはならない。

AFの防護はあらゆる作戦局面において必要不可欠であるが、特に艦船から海岸部への展開においては重要である。敵兵力の拒否的妨害がない海上優勢こそが水陸両用作戦の実施を可能にする。

作戦区域への展開計画を制定するにあたって、海上経路と会合地点の選定は慎重に実施する必要がある。海上経路は、可能な限り機雷敷設可能な水域及び敵が航空、水上もしくは潜水艦による攻撃を実施し得る敵の沿岸拠点の近傍を回避して選定されるべきである。敵に探知される可能性を最小化するため、敵の監視区域については既知の、あるいはその可能性がある区域も含めて回避するよう計画されることとなるだろう。通信保全是計画全般を通じて必要不可欠かつ維持されなければならない。

JOA内に信頼できる陸上基地がない場合、シー・ベーシングが海上からの統合軍戦闘力の展開、集積、指揮、投射、再構築そして再展開といった機能を担う。シー・ベーシング機能を使用することにより、JFCは水陸両用作戦部隊の近接、集積、使用、維持そして再構成についてオプションを手に入れることになる。シー・ベーシングが艦船から海岸部への展開に必要な作戦機動を提供することで、水陸両用作戦の実施段階において沿岸部活動拠点の深刻な減少が生じた場合においても統合軍の(作戦区域への)アクセスが確保される上、(海外の陸上基地を使用する作戦遂行に必要な)基地提供国の承認に依存する度合いを最小化する。さらにシー・ベーシングによってLFがC2や後方補給物品といった作戦要素を防護する所要が減少するため、海岸部におけるLFの機動性が高まる。

結 び

この刊行物は水陸両用作戦における統合軍ドクトリンを確立するものである。